

## 「発達障害」って、なんだろう？

### ●背中で見えるって？ 空気になるって？

スタッフとして入った当初は、どこを見ていいのか、どのようにいけばいいのかわからず、場から浮いているような感じがしていました。晴子さんが言う「背中で見える」「空気になる」という感覚を目指すものどうしたらよいかわかりませんでした。 ※豊吉：私も「目指している」のです^\_^;

### ●活字におこすと、

#### ゆっくり客観的に振り返ることができる。

スタッフをしながら卒論の研究もさせてもらえることになりました。改めて活字におこすことで、教室で観察したり聞いたりしたことを客観的に振り返ることができました。その場で瞬時に臨機応変な対応ができない私にとって、ああしたらよかったかな、こういうことだったのかなと、ゆっくり検討できるこの時間は貴重でした。

### ●目に見えなくても変化は起こっているかも

K君だけでなく、教室での生徒さんとの関わりを通して、自分の想像力の乏しさも思い知りました。教室に来るたびにどんどんと変化していく姿、思いもよらない反応、突然現れる変化等々…子どもたちの可能性を引き出していくためには、もっともっと先を見通していく力が必要なんだと感じました。

例えば表面上には見えなくても、子どもたちの内面では変化が起こっているのかもしれない。

そんな気持ちでよくよく見てよくよく感じていく。

そんな経験をこれからは実践の場で積んでいきたいと思います。

\*\*\* \*\* \*\*\*\*\* \* \*\*\*\*\* \*\*

プリントをしているのと、指導者とは全く違って、学ぶことがもっとあります。教室を閉じる前に共に語れる相手ができたことは、本当にあり難いことでした。

翔子ちゃんも4月から、特別支援学校に教員としてデビューします。

すぎなでの学びが生きていいなあ。

そして、新たな学びの話聞かせてもらえるのを楽しみにしていますね。

今日で教室は最後という日、K君は、何度も何度も私に聞きました。

「もうすぎな終わり？」「はるこさん、いつ帰ってくる？」「またすぎなできる？」そして、「ぼくは、すぎな続けたかったんだ」と涙を浮かべ、大きな声で叫び、足を床をけり、その足がテーブルにあたって、ガンガン音をたてます。

K君は、自分の中に起こってくる感情を整理できず、うまく表現することができない。そのギャップの激しさが、こういう行動に出ているのでしょう。

落ち着いてきたK君に私は言いました。「ねえ、今の気持ち書いてみよう」。

K君は、ずっと鉛筆をもち、迷わず書いています。

「はるこさん、今まで勉強教えてくれてありがとう。

またはるこさんと勉強してもらったら うれしいね」。

今、「100人に1人が自閉症」と言われています。自閉症だけでなく、「発達障害」と枠を広げたら、私たちの日常にはたくさんの発達障害の人がいるということです。

すぎなにも何人か来てくれていました。支援学級や特別支援学校に行っている子もいました。実は、私は、「らくだメソッド」に、いろいろな人が同じ空間で学ぶことができる可能性を感じてこの教室を始めていました。

- ・彼らと同じ空間で、それぞれのペースで勉強することができる。
- ・彼らの学習の変化・様子の変化を目の当たりにすることができる。
- ・彼らの特徴を知ることができる。(私がさりげなく説明します)

距離を置きながらも、こういう体験をするうちに、彼らに対して「うるさい」「集中できない」と言っていた子が、集中して自分のプリントをするようになります。彼らが一生懸命であることもわかってくるのだと思います。私と彼らとの会話を聞いて、クスッと笑うようになり、会話に交じるようにもなります。そうしているうちにプリントを通した成果もあいまってか、発達障害の子たちもとても落ち着きリラックスしていくようでした。

こういう肌身で感じる体験が、将来どのように作用するかはわかりません。

発達障害のことを知ることは、彼らの事がよくわかるし、「発達障害」にとらわれずに彼らと付き合うこともできるようになるとと思います。また、自分の子どもが発達障害であろうがなかろうが、皆の子育てを楽にしてくれると思います。

そして、思い出してほしいのです。

私も彼らも、常に変化している「誰もがよく生きようとしている」存在なのだと。



## あのコーヒー少年は、今・・・

### ●コーヒーは、「えさ」じゃない

すぎな通信97号で紹介したK君（現在小2）は、その後どうなったでしょう？

しばらくすぎなではデカフェが流行り、意外にもコーヒー好きな子が何人かいて、皆で楽しんだものです。

しかし、その年の暮れ、空っぽになったコーヒーの袋を渡して、私は言いました。

「もうコーヒーなくなっちゃったあ。もうないね。袋は捨てようね。」

年明け教室に来た時、K君は「コーヒー」とは言いませんでした。コーヒーは、プリントを始める癖をつけるための「きっかけ」であって、決して「えさ」ではありませんでした。大きなステップアップです！

### ●字が雑なのは、ステップアップの印！

あれから、K君は家で毎日プリントをしてきました。

そのお蔭で、少しずつ数字を見ながら数字が書けるようになっていきました。

すると、字が雑になったり枠からはみ出る大きな書くようになってきました。見なくても自分で書けるようになっていく証拠。でも、読める字で書ける必要があります。こういう時「ちゃんと書こう」などという漠然とした言い方ではなく、K君にとってわかりやすい言葉を捜してきました。

「四角の中」。

そうすると、K君はちゃんと枠の中に書くようになりました。すると、大きすぎて重なっていた字も見やすい大きさに自ずと変わっていきました。

### ●「止まらないで、最後まで続けましょう」。

次のK君の問題は、プリントへの取り掛かりも遅く、数字を2、3個書いては、よそ見をしたり、手をパンパンたたいたり、一人おしゃべりをしたりして、なかなか次に進まないこと。これにも何かいい言葉を捜したいもの。お母さんと相談して、「とまらないで、最後までつづけましょう」と統一することになりました。

文字が続けて書けたら「止まらないで書けたねえ」と言って、「止まらない」という言葉とその行為がつながるようにしていきました。

お母さんは書いているときに、「ゆっくり ていねいに」という声かけもしていらっしやいました。

こうして、K君は少しずつ続けて書く字数が増やしてきました。

### ●「1から30まで」一気にかけた！！

このように出てくる問題の一つひとつK君にわかりやすい対策をとり続けてきて1年9か月目のこと。

K君が鉛筆を持ったと思ったら、プリントにすつとりかかりました。自分で「ゆっくり、ていねいに」と言って「1」を書く、「ゆっくり、ていねいに」と言って、「2」を書く・・・

この調子で、とてもリズムカルに止まらないで、書き続けるのです。いつもなら、休憩しそうなところも、

同じテンポで書き続けています。

お母さんと私は、息をのむように見守り続けました。

改行！そのまま書き続けて「20」。

改行！そのまま書き続けて、ついに「30」。

つまり「ゆっくり、ていねいに」を30回言って「30」まで休まず一定のリズムで書き終えたのです。

「すごーい！」

「Kくん、止まらないで、続けて最後までかけたね！止まらないで、続けて最後までかけた。やったー！」

K君も嬉しそうにパッチン、パッチンと両手を私の両手と合わせる。お母さんともパッチンパッチン！

何が起こったのでしょうか？想いがけない記念すべき日が訪れ、全部を止まらずに全部書き終えるというペースは、その後、3日続きました。

手を持って書かせることもせず、あくまでも本人の意思を大切に、お母さんと相談して統一したことを毎日続けてきて起こったこと。

こういう瞬間に立ち会えるというのは、指導者として何にも勝る醍醐味なのです。

残念ながら、スタッフの翔子ちゃんは、この日おらず、とっても残念がっていました。

残念がるには、もう一つ理由があったのです。

実は、翔子ちゃんは、大学の自分の卒業研究に、「能動的な学習」をテーマにK君の親御さんの了解のもと、9か月に渡り、K君の様子を見守ってきたのです。

見守ってきて、卒業研究としてまとめてみて、気づいたことなど、紹介しますね。（次のページへ）

## ●背中に見るって？ 空気になるって？

スタッフとして入った当初は、どこを見ていいのか、どのようにいけばいいのかかわからず、場から浮いているような感じがしていました。晴子さんが言う「背中に見る」「空気になる」という感覚を目指すもののどうしたらよいのかわかりませんでした。

※豊吉：私も目指しているんです^\_^;

## ●活字におこすと、

### ゆっくり客観的に振り返ることができる。

スタッフをしながら卒論の研究もさせてもらえることになりました。改めて活字におこすことで、教室で観察したり聞いたりしたことを客観的に振り返ることができました。その場で瞬時に臨機応変な対応ができない私にとって、ああしたらよかったかな、こういうことだったのかなと、ゆっくり検討できるこの時間は貴重でした。

## ●目に見えなくても変化は起こっているかも

K君だけでなく、教室での生徒さんとの関わりを通して、自分の想像力の乏しさも思い知りました。教室に来るたびにどンドンと変化していく姿、思いもよらない反応、突然現れる変化等々…子どもたちの可能性を引き出していくためには、もっともっと先を見通していく力が必要なんだと感じました。

例え表面上には見えなくても、子どもたちの内面では変化が起こっているのかもしれない。

そんな気持ちでよくよく見てよくよく感じていく。

そんな経験をこれからは実践の場で積んでいきたいと思います。

\*\*\* \*\* \*\*\*\*\* \* \*\*\*\*\* \*\*

プリントをしているのと、指導者とは全く違って、学ぶことがもっとあります。教室を閉じる前に共に語れる相手ができることは、本当にあり難いことでした。翔子ちゃんも4月から、特別支援学校に教員としてデビューします。

すぎなでの学びが生きること、そして、新たな学びの話聞かせてもらえるのを楽しみにしていますね。